

### シルクロードも今や快適に旅する時代 国家的プロジェクトによりインフラを整備

テレビ番組を通じて紹介された魅力で脚光を浴びてから30年余が経過し、シルクロード観光も大きく様変わりしました。当初は、インフラ整備の遅れから「我慢」を強いられることも珍しくありませんでしたが、国家的プロジェクトによる開発の進展と世界遺産登録などにより、シルクロード観光の快適性・利便性は著しく向上してきています。

#### 日本市場での中国観光人気を牽引

2014年6月にカタールのドーハで開催された第38回

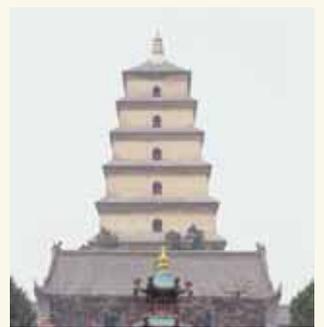
世界遺産委員会で、北京と浙江省を結ぶ「大運河」とともに、中国カザフスタン・キルギスの3カ国が共同で申請していた「シルクロード」が世界文化遺産に登録されました。

1972年に日本と中国の国交正常化が実現して、1974年に日中間に定期航空路線が開設された後、1979年には10万人台にすぎなかった訪中日本人旅行者数は、1980年代後半に50万人台へ飛躍的に増加しましたが、この訪中日本人旅行者数の急増に大きく貢献したのは、1980年4月から1年間にわたって放映されたNHK特集を通じて紹介された「シルクロード」の魅力でした。

紀元前2〜1世紀に洛陽や長安とローマを結んでいた8700キロに及ぶシルクロードは、絹をはじめとする特産物の交易を通じて周辺地域の文化交流を促し、各地における文明も大いに発展していくことになりました。シルクロードの起点となった長安が、陝西省の省都・西安であることくらいしか知らなかった当時の日本人に、「河西回廊」や「敦煌」「楼蘭」「西域南道」「ホータン」「トルファン」「天山南路」「天山北路」「カシュガル」といった土地の名前を記憶させて、はるか西域へのロマンをかきたてたNHK特集は、シルクロードを日本の海外旅行市場における人気 destinations ションとして浮上させ、中国の魅力

一気に高めることになったのです。

それから30年余を経て、中国観光の定番として不動の地位を維持してきたシルクロードは、3カ国の共同申請により世界文化遺産への登録で再び脚光を浴びることになり、2015年からスタートした「シルクロード観光年」を通じて、改めてその魅力が注目されています。



大雁塔(陝西省)

易品である絹の流通が盛んであったことから「シルクロード」と名付けられたのは周知の通りです。今回の世界文化遺産登録では、中国と欧州を結ぶ大ルートのうち、長安や洛陽から天山回廊を経て中央アジアに至る部分で、三蔵法師がインドから持ち帰った経典が収められたとされる「大雁塔」や「麦積山石窟寺」など、対象となる遺跡群は河南省、陝西省、甘粛省、新疆ウイグル自治区の3省1自治区に及びます。【※22ページのリスト参照】。

#### 登録資産周辺の整備も着実に進展

中国が外国人旅行者に門戸を開き始めた1980年代の前半、シルクロード観光で訪れる中国西域は、道路事情も決して良くなく、宿泊も人解放軍や幹部の招待所を利用し、シャワーを浴びられるのは3日に1度というような状況も珍しくありませんでした。

しかし、その中国西域も時代の変遷とともに大きく様変わりし、高速道路や高速鉄道が開通して、タクマラカン砂漠周辺の町であつても、4ツ星・5ツ星のホテルが開業するようになり、快適に旅行することが可能となっています。



キジル石窟(新疆ウイグル自治区)



麦積山石窟(甘粛省)



隋唐洛陽城定鼎門(河南省)

2014年に世界文化遺産に登録された「シルクロード」は、洛陽・長安からタクマラカン砂漠の入口となる敦煌を抜けてキルギスタンに入り、天山山脈の南北を通つてカザフスタンに入るルート上に点在する33の遺跡群で構成されており、その内の22カ所が中国の遺跡です。

シルクロードの起源は、前漢の武帝の時代にさかのぼります。古代から政治、経済、思想、文化の伝播ルートとして重要な役割を果たし、主要買

2014年の世界文化遺産登録によって、登録資産周辺の整備なども着実に進められ、以前は観光を楽しむどころか、アクセスさえも容易ではなかった場所への訪問も可能になりました。

中国では、習近平主席が「一帯一路」の構想が積極的に進められています。この「シルクロード経済圏」では、中国を起点に中央アジアから欧州にいたる「シルクロード経済圏」と中国沿岸部からアラビア半島までを結ぶ海上交通路「21世紀の海のシルクロード」という陸と海の2つのルートが想定されています。この2つのルートは「一帯一路」と名付けられ、中国が400億ドル(約4兆5800億円)のシルクロード基金を創設して、周辺地域の鉄道やパイプライン、通信網などのインフラ整備の促進を図られており、2015年からスタートした「シルクロード観光年」も、この「一帯一路」における取り組みの一環として位置付けられるものなのです。

また、この「一帯一路」に先行する形で、中国国内では、東部沿海地域と西部内陸地域との地域格差を縮小し、西部経済の発展を促進することを目指して、2000年代に入ってから



交通インフラ整備により高速鉄道網も拡充されています

国家的プロジェクトとして「西部大開発」戦略が進められてきました。中国政府は、鉄道や高速道路、空港など交通のインフラ整備に重点を置いた政策を実施し、2000年からの10年間に2.2兆元(約28兆6000億円)を西部地域に投資し、西部経済のプレゼンスも次第に高まってきており、シルクロード観光を支えるツーリズム産業にも、西部経済の発展を担う重要な役割が期待されるようになってきています。

### ハードソフト両面で向上するインフラ

陝西省の省都である西安は、中国大陸の中心に位置するこの都市として交通も発達してきました。江蘇省連雲港市と甘肅省蘭州市を結ぶ隴海線と甘肅省蘭州市と新疆ウイグル地区ウルムチ市を結ぶ蘭新線という重要な2つの路線が交わ

る西安は、沿線地域で最も経済が発達している中国西部の中心として国道網の要ともなっており、東西南北の中国各地に広がる交通ネットワークのハブ的存在と言えます。

また、現在、西安から銀川への高速鉄道も建設が進められており、2020年の完成を目指しています。高速道路も、宝鶏と坪坎を結ぶ高速道路と、呉起と定辺を結ぶ2路線が開通し、陝西省における高速道路の総延長は5000キロを突破しました。

甘肅省でも、省内の高速道路の開通した距離が3600キロに達しており、周辺省との高速道路との接続も全て完了しています。

さらに、新疆ウイグル自治区でも、2014年12月に蘭新高速鉄道が蘭州からウルムチまで開通したほか、2015年に初めてマイカーの観光施設がカラマイ市に開設されました。現在、トルファン、トクソン、天山紅河谷自動車公園プロジェクトや伊犁カザフ自治州の昭蘇県天馬文化園自動車公園設営プロジェクト、ホータン市マイカー観光施設プロジェクトも進行中で、道路インフラはハードソフトの両面で大きくレベルアップされることが期待されています。

### 各都市に4ツ星・5ツ星のホテル開業 国際標準のサービスで滞在も快適に

かつて「シャワーは3日に一度」と言われたシルクロード観光の宿泊事情も、周辺地域の各都市に4ツ星・5ツ星クラスのホテル開業が相次ぎ、すっかり様変わりしました。

最高級の料理を楽しめるレストランや屋内プール、フィットネスセンターやサウナなどのホテル施設の充実ぶりに加え、無料WiFiや24時間対応ルームサービスなど、ハードソフトの両面で国際標準の滞在を楽しめるようになっていきます。



銀川ケンピンスキーホテル(寧夏省)



シエラトルムチホテル(新疆ウイグル自治区)

### 世界遺産「シルクロード」の構成資産リスト (中国部分)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 〈河南省〉        | 〈甘肅省〉         |
| 1.漢魏洛陽城遺跡    | 12.麦積山石窟      |
| 2.隋唐洛陽城定鼎門遺跡 | 13.鎖陽城遺跡と墓群   |
| 3.新安漢函谷関遺跡   | 14.玉門関・河倉城遺跡  |
| 4.崑函古道石壕段遺跡  | 15.懸泉置遺跡      |
|              | 16.炳靈寺石窟      |
| 〈陝西省〉        | 〈新疆ウイグル自治区〉   |
| 5.漢長安城未央宮遺跡  | 17.高昌故城       |
| 6.唐長安城大明宮遺跡  | 18.交河故城       |
| 7.興教寺塔       | 19.キジル石窟(千仏洞) |
| 8.張騫墓        | 20.クズルガハ烽火台   |
| 9.大雁塔        | 21.スバシ仏寺遺跡    |
| 10.小雁塔       | 22.北庭故城遺跡     |
| 11.彬県大仏寺石窟   |               |